

|   |                   |       |                          |
|---|-------------------|-------|--------------------------|
| ① 申請者   | ◎沖縄県<br>(那覇市、浦添市) | ② タイプ | 地域型 / シリアル型<br>A B C D E |
| ③ タイトル  |                   |       |                          |
| 琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」   |                   |       |                          |
| ④ ストーリーの概要（200字程度）  |                   |       |                          |
| <p>沖縄県はかつて琉球王国と呼ばれ、独自の文化を形成してきた。琉球王国は「守礼の邦＝礼節を重んじる国」を掲げ、訪れる外国の賓客をもてなすために礼遇を行った。</p>   |                   |       |                          |
| <p>特に、中国皇帝から派遣された冊封使節団は滞在期間が約半年間に及ぶほど大規模だった。宴は国を挙げての重要な行事で、冊封使をもてなす料理や芸能に力を注いだ。そこで供された宮廷料理や御用酒泡盛、宴を盛り上げた芸能は、今も沖縄の誇りとして県民に親しまれている。</p> |                   |       |                          |
| <p>琉球王国時代に育まれた食文化と芸能は、「世替わり」の歴史を映しながら、連綿と続く「守礼の心」で受け継がれている。</p>   |                   |       |                          |
|    |                   |       |                          |
| 写真提供：琉球舞踊© 沖縄美ら島財団、東道盆© OCVB  |                   |       |                          |

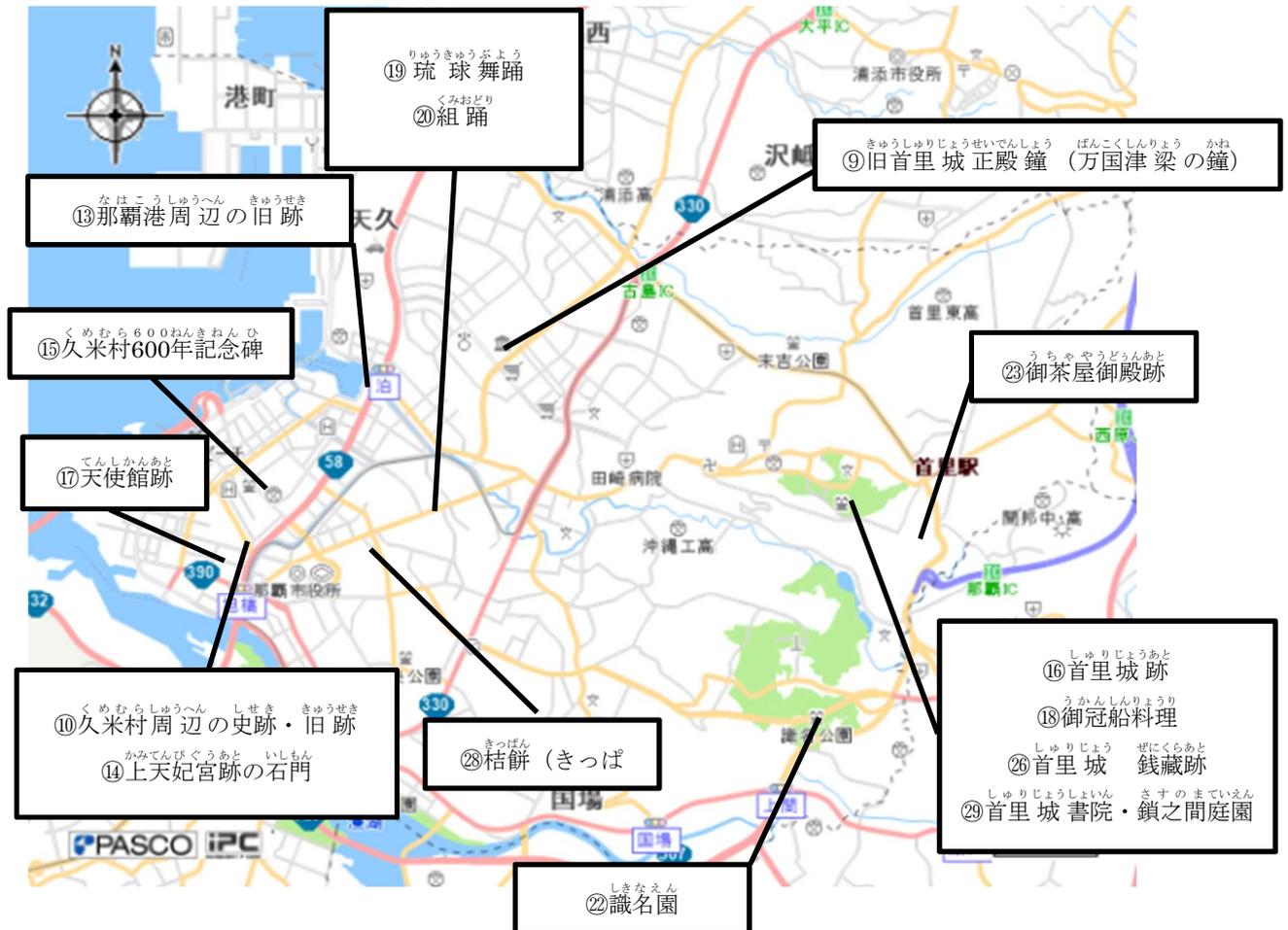


## 構成文化財の位置図（地図等）

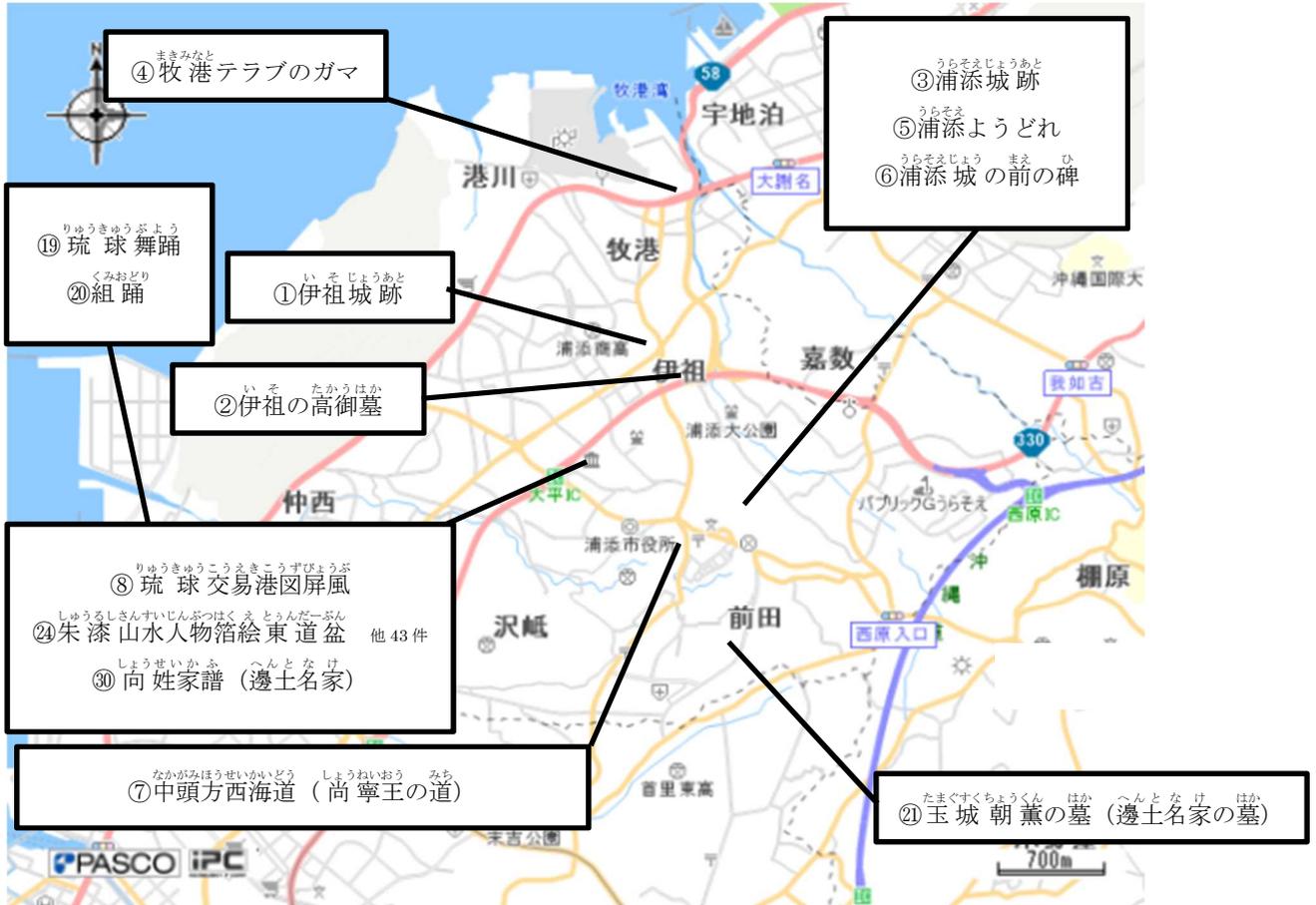
### ・全域にわたる構成文化財

⑪清明祭、⑫ウサンミ（お供え物）、⑮琉球泡盛、⑰豆腐よう

### ・那覇市拡大図



・浦添市拡大図



ストーリー

### 1. 琉球王国の礎を築いた王都・浦添

かつて沖縄県は琉球王国と呼ばれ、独自の文化を形成してきました。14世紀頃の琉球王国は、北山、中山、南山という3つの小国に分かれ、沖縄島をめぐる抗争をくり広げていました。このうち最も有力な勢力は現在の浦添市に拠点を置く中山で、舜天・英祖・察度の三王統が栄えました。



中山の王城である浦添グスク(城)は、13世紀頃の英祖王の時代に整備されました。後の察度王の時代には高麗系瓦葺きの正殿を中心に、石積み城壁で囲まれた大規模な城になり、周辺には王陵・寺院・大きな池・屋敷・集落などがありました。また、その頃から、牧港を中心に中国との朝貢貿易を始めるなど海外交易の扉を開きました。

琉球王国初期の王都・浦添は、後に大交易時代を迎え東南アジアの中継貿易拠点として繁栄した琉球王国の礎を築いた都と言えます。今も浦添市には、中山の王城であった「浦添グスク」や初期琉球国中山の王陵である「浦添ようどれ」、首里城と浦添グスクを繋ぐ石畳道の古道など多くの史跡が残されています。

### 2. 貿易国家として繁栄を築いた琉球王国

15世紀初期、中山の察度王統を倒し中山王となった尚巴志は、北山・南山を倒して三山を統一した後、王都を浦添グスクから首里城に遷都し、併せて貿易拠点を那覇に移し、琉球王国を発展させていきました。

王都の遷都に伴い交易の拠点となった那覇港は、日本や中国、東南アジアとの交易拠点となって琉球王国の発展を支えていました。それは首里城正殿前に掛けられていた「万国津梁の鐘」に刻まれている「琉球国は南海の恵まれた地域に立地し、(中略)船を操って万国の架け橋となり、外国の珍しい品物や宝物が国中に満ち溢れている」という文言からも分かるように、海外との交易を通じて発展し、礼節をもって中国の冊封使などを迎え入れました。

また、那覇港近くの那覇市久米は、14世紀頃に中国福建地方の中国人集団(閩人三十六姓)が居住しており当時は久米村(くにんだ)という中国人の集落でした。閩人三十六姓は中国などとの外交を担ったほか、琉球王国の政治や経済、文化にも様々な影響を与え、食文化にも多くの影響を与えています。

今も昔も琉球料理には欠かせない豚の飼育や豆腐の製法のほか、清明祭やそこに供されるウサンミ(豚や鳥、魚のお供え物)は久米村から王府に伝わり、それが一般家庭にも伝わったといわれています。今も清明の時期になると県内のスーパー等には多くのウサンミが売られています。

那覇港周辺には、当時の航海安全を祈願した天妃宮跡や久米村600年記念碑などの史跡や石碑が多く残されており、当時の痕跡をたどることができます。

### 3. 守礼の心が育んだ宮廷料理と琉球芸能

琉球王国の時代、琉球国王の冊封(新国王を任命するための儀礼)のための使節団である冊封使が琉球を訪れていました。使節団は総勢400人あまり、約半年の間、沖縄に滞在したと言われています。荘厳な冊封儀式のほか、冊封使滞在中には、首里城北殿や、天使館など各地で「七宴」と呼ばれる国王の主催する七つの大宴が開かれ、そこでは、三十数品にも及ぶ中国風の料理が振る舞われていました。国賓の歓待には欠かせない食については、料理人を中国に派遣し学ばせるほど力を入れており、琉球版「満漢全席」とでも呼ぶべきこの料理は、国王の王冠を携えた冊封使の乗る船の名を由来として、「御冠船料理」と呼ばれました。



提供：安次富順子

こうして、琉球王国時代に中国の冊封使をもてなすための料理が生まれ、調理技術や作法等を洗練させて「宮廷料理」として確立されました。また、「七宴」では、色彩豊かで華やかな紅型衣装を身にまとった琉球舞踊が演じられたほか、のちにユネスコ無形文化遺産にも登録される組踊が誕生し、演じられました。

一方、「七宴」以外では、冊封使をもてなすために造られた琉球王家最大の別邸識名園や御茶屋御殿において、朱色の鮮やかな琉球漆器に盛りつけられた料理や芸能で冊封使を歓待していました。

このように、琉球王国の食文化と芸能は、中国の客人に向けた「守礼の心」により、育まれてきました。

#### 4. 御用酒として現代に引き継がれる「泡盛」

15世紀頃、琉球王国は東南アジア、特にシャム（現在のタイ王国）との交易が盛んでした。その頃、蒸留酒とその製造技術を琉球に持ち帰ったとされており、15世紀後半には泡盛が造り始められました。

17世紀、泡盛の製造は首里王府の管理の元にありました。王府の中には、泡盛の製造を管理する役所があり、泡盛は厳しい管理の下、銭蔵に保管され、冊封使などの接待用として振る舞われるなど、御用酒として取り扱われていました。



また、泡盛の大きな魅力は、年月をかけることで、熟成されたすば

らしい古酒になることです。年代物の古酒に若い酒を注ぎ足すことで、香りや芳香さを保つことができる「仕次」の文化が今でも各家庭に定着しており、祭礼や祝い事等において来客に振る舞われます。

#### 5. 世替わりを経て、今もなお連続と続く「食文化」と「芸能」

明治政府が行った廃藩置県により、約450年の歴史を持つ琉球王国は幕を閉じました。琉球王国が沖縄県になってからは、琉球王国に従事していた料理人たちは、その職を失いましたが、その技術は、御冠船料理や薩摩支配の影響を受けた日本式の料理を源流とした琉球料理を首里地域から那覇地域の社交場へと広げました。琉球王国時代から食されている「中身のお汁」や「豆腐よう」など数多くの品々は今も沖縄県民に愛されているほか、県民の代表食である「ゴーヤーチャンプルー」やサギグスイ（悪いものを体の中から下げる薬）と言われている「イカスミ汁」などは、医食同源の理念にかなっており、今でも「ヌチグスイ＝命の薬」、「クスイムン＝薬になるもの」として生活に根付いており食堂などの定番メニューになっています。

また、今では沖縄土産の定番となっている「ちんすこう」や御冠船料理でも供されていた「橘餅」などの琉球菓子が琉球王国時代から代々継承されています。

首里の限られた地域でしか製造が認められていなかった琉球泡盛については、現在では離島を含む県内各地域の酒造所で製造されるとともに、酒蔵見学や試飲体験が行われています。

一方、沖縄県は「芸能の島」と称されるほど歌や踊りが盛んな地域で、披露宴などの催しの際には必ず芸能が披露されるなど、県民にとっては身近なものであり日常的に親しまれています。国立劇場おきなわ（浦添市）では、琉球舞踊や組踊の定期公演も行われており、気軽に沖縄の芸能に触れることができます。

那覇市内には今も、かつての冊封使節団の歓待と同様に、琉球舞踊などの芸能を鑑賞しながら琉球料理や泡盛を楽しめる老舗の料亭などもあり、沖縄の食と芸能を堪能することができます。

このように琉球王国時代に生まれた国際色豊かな食と芸能文化は脈々と受け継がれ、今も県民や国内外からの観光客を魅了しています。

提供：沖縄美ら島財団



## ストーリーの構成文化財一覧表

| 番号 | ふりがな<br>文化財の名称<br>(※1)            | 指定等の状況<br>(※2) | ストーリーの中の位置づけ<br>(※3)  | 文化財の所在地<br>(※4) |
|----|-----------------------------------|----------------|---|-----------------|
| ①  | いそじょうあと<br>伊祖城跡                   | 国名勝・県史跡        | 初期の琉球国の王統として栄えた英祖王の生誕地。琉球開闢神話のアマミクにより造られたグスクとの伝説も残る。琉球古謡集『おもろさうし』には、英祖が夏も冬も酒盛りをした古謡（オモロ）が収録されており、伊祖グスクのふもとにオモロの石碑があります。 | 浦添市             |
| ②  | いそ たかうほか<br>伊祖の高御墓                | 県指定・有形文化財（建造物） | 英祖の父祖代々の墓。崖の中腹の洞穴を利用し、その前面を石積みで塞いだ墓。県の有形文化財（建造物）として指定を受けています。   | 浦添市             |
| ③  | うらそえじょうあと<br>浦添城跡                 | 国史跡            | 13 世紀に築かれ、14 世紀には高麗系瓦ぶきの正殿を中心に、石積み城壁で囲まれた大規模なグスク（城）。その周辺には寺院や集落があり、後の王都首里の原型がここでできあがっていました。                             | 浦添市             |
| ④  | まきみなと<br>牧港テラブのGamma              | 市史跡            | 浦添の港であった牧港に残る舜天王にゆかりのある洞穴遺跡。伝説では 12 世紀後半に琉球に来た源為朝の子供が舜天であったと伝わる。  | 浦添市             |
| ⑤  | うらそえ<br>浦添ようどれ                    | 国史跡            | 琉球王国初期の英祖王一族と琉球王国第 2 尚氏王統第 7 代目国王尚寧王一族の墓。   | 浦添市             |
| ⑥  | うらそえじょう まえ ひ<br>浦添城の前の碑           | 国史跡            | 1597 年に尚寧王の命により、浦添グスクから首里城までの道を整備した際の竣工記念碑。   | 浦添市             |
| ⑦  | なかがみほうせいかいどう<br>中頭方西海道<br>(尚寧王の道) | 国史跡            | 首里城と浦添グスクを繋ぐ古道。琉球王国第 2 尚氏王統第 7 代目国王、尚寧王の命によって改修されたかつての街道（石畳道）。  | 浦添市             |

|   |  |                |  |            |
|---|--|----------------|--|------------|
| ⑧ | 琉球交易港図屏風<br>りゅうきゅうこうえきこうずびようぶ                          | 市指定<br>(有形文化財) | 琉球王国時代末期の那覇港周辺の様子を生き生きと描いた屏風です。首里城や中国から戻った進貢船、薩摩役人の姿などが描かれています。<br>沖縄で唯一の漆の美術館、浦添市美術館で収蔵されています。              | 浦添市        |
| ⑨ | 旧首里城正殿鐘<br>(万国津梁の鐘)<br>きゅうしゅりじょうせいでんしやう<br>ばんこくしんりやうかね | 国重文            | 琉球王国が日本や中国、東南アジア諸国との交易で繁栄していた 1458 年に当時の国王尚泰久王が鑄造させた鐘。万国津梁とは、世界を結ぶ架け橋の意味。                                    | 那覇市        |
| ⑩ | 久米村周辺の史跡・<br>旧跡<br>くめむらしゅうへん しせき<br>きゅうせき              | 未指定<br>(史跡)    | 天妃宮や孔子廟など多くの文化遺産が残されていた久米村は、沖縄戦で廃墟となりましたが、天妃宮の石門だけが残り、かつての名残をわずかに留めています。                                     | 那覇市        |
| ⑪ | 清明祭<br>しーみーさい  | 未指定<br>(生活文化)  | 沖縄の代表的な祖先祭祀の一つ。旧暦の 3 月頃、「24 節気」の「清明祭」の節気にお墓参りを行います。<br>沖縄のお墓は、本土のお墓とは違い、大きく、墓庭があるのが特徴で、その墓庭に親族が集まりお墓参りを行います。 | 那覇市<br>浦添市 |
| ⑫ | ウサンミ (お供え物)  | 未指定<br>(生活文化)  | 清明祭の時期に、親族が集まってお墓参りを行う際に、各世帯が持ち寄るお供え物。お参りの後、墓庭に敷物を敷き皆でウサンミをいただきます。   | 那覇市<br>浦添市 |
| ⑬ | 那覇港周辺の旧跡<br>なはこうしゅうへん きゅうせき                            | 未指定<br>(史跡)    | 港の周辺には、多くの名所・旧跡が散在していましたが、そのほとんどが沖縄戦で破壊されました。今は王国時代の絵図と明治期の写真で往時の姿を概観することができます。                              | 那覇市        |
| ⑭ | 上天妃宮跡の石門<br>かみてんびぐうあと いしもん                             | 市史跡            | 天妃宮とは久米村にあった上下の廟で、航海安全の神である媽祖を祀っています。沖縄戦で廃墟となりましたが、天妃宮の石門だけが残りかつての名残をわずかに留めています。                             | 那覇市        |

|   |                             |               |   |            |
|---|-----------------------------|---------------|---|------------|
| ⑮ | くめむら600ねんきねんひ<br>久米村600年記念碑 | 未指定<br>(記念碑)  | 久米村に居住していた <sup>びんじん</sup> 閩人36 姓は、琉球王国時代から政治・経済・文化の発展に大きく寄与しました。久米村が、沖縄の歴史に果たしてきた役割を顕彰し、松山公園内に記念碑が建立されました。 | 那覇市        |
| ⑯ | しゅりじょうあと<br>首里城跡            | 国史跡           | 琉球王国の政治、外交、文化の中心地。沖縄最大の木造建築物であり、日本と中国の建築様式が取り入れられています。冊封使滞在の際には、冊封の式典が執り行われたほか、北殿の前に舞台が設営され、様々な芸能が演じられました。  | 那覇市        |
| ⑰ | てんしかんあと<br>天使館跡             | 未指定<br>(史跡)   | 冊封使のための宿舎跡。第七宴 <sup>ぼうしゅうのうたげ</sup> 「望舟之宴」として、国王が直接出向き金扇を贈り別れをしたと言われています。                                   | 那覇市        |
| ⑱ | うかんしんりょうり<br>御冠船料理          | 未指定<br>(生活文化) | 冊封使接待に伴い発展した宴席料理。ツバメの巣やフカヒレ、松茸、鹿肉のアキレス腱など沖縄にはない食材料がふんだんに用いられていました。琉球食文化研究所において、琉球王国の食文化の保存・復元、普及啓発が図られています。 | 那覇市        |
| ⑲ | りゅうきゅうぶよう<br>琉球舞踊           | 国重文(芸能)       | 宮廷芸能として発展した古典舞踊、明治以降の民衆の活力を取り入れた雑踊り、戦後の創作舞踊に概ね分類されます。国立劇場おきなわで保存振興が図られているほか、自主公演も行われています。                   | 那覇市<br>浦添市 |
| ⑳ | くみおどり<br>組踊                 | 国重文(芸能)       | 冊封使歓待のため 1719 年に初めて創作、上演された歌舞劇。沖縄を代表する伝統芸能であり、国立劇場おきなわで保存振興が図られているほか、自主公演も行われています。                          | 那覇市<br>浦添市 |

|   |  |                |   |     |
|---|--|----------------|---|-----|
| ⑳ | たまぐすくちようくん ほか<br>玉城朝薫の墓<br>(へんとなげ ほか)<br>(邊土名家の墓)      | 市史跡            | 冊封使歓待のための踊 <sup>おどりぶぎょう</sup> 奉行に任じられた玉城朝薫の墓。玉城朝薫は音楽・舞踊・台詞を総合的に取り入れた組踊を創作しました。  | 浦添市 |
| ㉑ | しきなえん<br>識名園   | 国特別名勝          | 琉球王家最大の別邸。国王一家の保養や外国使節の接待などに利用されました。<br>1799年につくられ、翌年に冊封使が招かれています。<br>琉球式結婚式の会場などにも使用されています。  | 那覇市 |
| ㉒ | うちやうどうんあと<br>御茶屋御殿跡                                    | 未指定<br>(史跡)    | 1677年に琉球王国の王家の別邸として創建され、国王の遊覧や冊封使などの歓待などに使用されました。その際に様々な芸能などが催されました。<br>沖縄戦で破壊され、現在、跡地には、首里カトリック教会が建設されていますので、施設内に入る際は、管理者の許可が必要になります。  | 那覇市 |
| ㉓ | しゅうるしきんすいじんぶつはく えとうんだい<br>朱漆山水人物箔絵東道<br>盆他 43 件 (琉球漆器) | 県・市指定<br>(工芸品) | 琉球漆器は、琉球王国時代に冊封使の歓待や中国への進貢品として用いられていた、琉球王国を代表する美術工芸品です。<br>なかでも、東道盆は、琉球漆器の代表的な器で、形状は四角(5品)、六角(7品)、八角(9品)、円形などがあります。中に盛り込んだ小皿には色や形が美しく、上質な酒の肴を客の数に合わせて盛り込みます。代表的なものとして、ミヌダル(豚ローズのごまだれ蒸し)、ターンム(田芋)から揚げ等があります。<br>琉球漆器は、沖縄で唯一の漆の美術館、浦添市美術館で常設されています。 | 浦添市 |

|    |  |                |   |            |
|----|--|----------------|---|------------|
| ②⑤ | 琉球泡盛<br>りゅうきゅうあわもり                         | 未指定<br>(生活文化)  | 琉球王国時代、泡盛は冊封使の饗応や江戸幕府の献上品として、外交には欠かせない貴重な品でした。<br>また、酒として味わうほか、ラフテーなどの独特の風味を出す調味料としても使われています。<br>泡盛は、長く寝かせ熟成されることで酒の質が向上し、より味わい深いお酒になります。 | 那覇市        |
| ②⑥ | 首里城 銭蔵跡<br>しゅりじょう ぜにくらあと                   | 未指定<br>(史跡)    | 琉球王国時代に泡盛やお金などを管理・保管していました。<br>現在は、跡地に休憩所が造られ、泡盛関連のイベントなどにも利用されています。  | 那覇市        |
| ②⑦ | 豆腐よう<br>とうふよう                              | 未指定<br>(生活文化)  | 豆腐を米麴と泡盛とで加工した発酵食品。<br>発酵熟成させたそのこくと香りから東洋のチーズとも呼ばれ、首里や那覇だけで作られていました。  | 那覇市<br>浦添市 |
| ②⑧ | 桔餅 (きっぱん)                                  | 未指定<br>(生活文化)  | 九年母やカーブチーなど柑橘類を砂糖で煮詰めたお菓子で、琉球王国時代から作られています。<br>現在は、那覇市内の一店舗だけで作られています。  | 那覇市        |
| ②⑨ | 首里城書院・鎖之間<br>庭園<br>しゅりじょうしょいん きすのま<br>ていえん | 国名勝            | 国王の執務空間であった書院、王子等の控え所であった鎖之間、これらの建物と一体となった城内唯一の本格的な庭園からなる名勝。  | 那覇市        |
| ③⑩ | 向姓家譜 (邊土名家)<br>しょうせいかふ (へんとなけ)             | 市指定<br>(有形文化財) | 冊封使歓待のための踊奉行に任じられた玉城朝薫の経歴と一族の家系を記録した史料。玉城朝薫は音楽・舞踊・台詞を総合的に取り入れた組踊を創作しました。  | 浦添市        |

## 構成文化財の写真一覧



いそじょうあと  
①伊祖城跡



いそ たかうはか  
②伊祖の高御墓



うらそえじょうあと  
③浦添城跡



まきみなと  
④牧港テラブのガマ



うらそえ  
⑤浦添ようどれ



うらそえじょう まえ ひ  
⑥浦添城の前の碑



なかがみほうせいかいどう しょうねいおう みち  
⑦中頭方西海道 (尚寧王の道)



きゅうしゅりじょうせいでんしょう ばんこくしんりょう かね  
⑨旧首里城正殿鐘 (万国津梁の鐘)

提供：県立博物館・美術館



りゅうきゅうこうえきこうずびようぶ  
⑧琉球交易港図屏風

提供：浦添市美術館



くめむらしゅうへん しせき きゅうせき  
⑩久米村周辺の史跡・旧跡



しーみーさい  
⑪清明祭

提供：安次富順子



⑫ウサンミ (お供え物)  
提供：安次富順子



なほこうしゅうへん きゅうせき  
⑬那覇港周辺の旧跡



かみてんぴぐうあと いしもん  
⑭上天妃宮跡の石門



くめむら600ねんきねんひ  
⑮久米村600年記念碑



しゅりじょうあと  
⑯首里城跡

提供：沖縄美ら島財団



てんしかんあと  
⑰天使館跡



うかんしんりょうり  
⑱御冠船料理

提供：安次富順子



りゅうきゅうぶよう  
⑲琉球舞踊

提供：沖縄美ら島財団



くみおどり  
⑳組踊

提供：沖縄美ら島財団



たまぐすくちょうくん はか へんとな はか  
㉑玉城朝薫の墓 (邊土名家の墓)



しきなえん  
②識名園



うちややうどうんあと  
③御茶屋御殿跡



しゅうるしさんすいじんぶつはく え とうんだいぶん  
④朱漆山水人物箱絵東道盆

提供：浦添市美術館

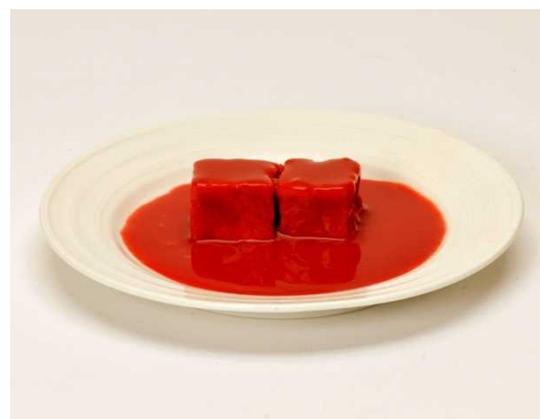


りゅうきゅうあわもり  
⑤琉球泡盛



しゅりじょう ぜにくらあと  
⑥首里城 銭蔵跡

提供：沖縄美ら島財団



とうふ  
⑦豆腐よう

提供：OCVB



きっばん  
⑳ 桔餅

提供：安次富順子



しゅりじょうしょいん さすのまていえん  
㉑ 首里城書院・鎖之間庭園

提供：沖縄美ら島財団



しょうせいかふ へとなけ  
㉒ 向姓家譜 (邊土名家)

提供：浦添市教育委員会

## 日本遺産を通じた地域活性化計画

## (1) 将来像 (ビジョン)

沖縄県はかつて琉球王国と呼ばれた独立国だった。琉球王国は、中国をはじめ日本や東南アジアとの交易によって繁栄し、交易をとおして多くの影響を受け、独特の文化を育んできた。

このような歴史的背景を踏まえ沖縄県においては、「沖縄21世紀ビジョン」基本施策において「沖縄らしい自然と歴史、伝統文化を大切に作る島を目指して」を掲げ、沖縄の独特な食文化の保存・普及・継承や、組踊や琉球舞踊など伝統芸能等の文化の担い手の育成、文化コンテンツ産業の振興などに取り組んでいるところである。

また那覇市では、「那覇市文化振興基本計画（那覇市まちづくりプラン）」で、「子どもたちが、郷土の歴史に対する理解を深め、郷土への誇りと愛情を持ち、次の世代が、今以上に歴史・文化の香り高い那覇市の実現を目指し取り組むこと」としている。

浦添市では「浦添市観光振興計画（平成30年度～37年度）」で、「古琉球時代の中山の王城として知られる浦添グスクや組踊等をはじめ、様々な歴史的ストーリーを活用したコンテンツを造成し、歴史・文化・芸能の産業化を図る」としている。

日本遺産への認定を機に、交易によって磨かれた沖縄の食文化と芸能の魅力や、その背景にある琉球王国時代の歴史をひとつのストーリーにして国内外に広く発信することで、文化財の保護に取り組みつつ観光資源として活用するほか、住民の地域への愛着や誇りの醸成に取り組み次世代へ継承していく。

## (2) 地域活性化のための取組の概要

① 沖縄の伝統的な食文化や芸能、歴史・文化の魅力発信。

琉球料理や泡盛、芸能、琉球王国時代の文化財等の魅力や価値を発信するため、多言語対応のWebサイトやプロモーション動画等を制作し国内外に発信するとともに、ロゴ制作や関連商品の開発などブランディングを行う。

② 日本遺産の魅力を体感できる観光コンテンツの造成。

誘客するターゲットを選定するため旅行者に対する調査・分析を行い、その結果を踏まえた観光ルートの策定や旅行商品、体験メニュー、関連商品等を造成することで旅行者のニーズにあった観光コンテンツを提供する。

③ 地域における受入環境の整備

旅行者に安心して快適な旅を楽しんでもらうため、構成文化財におけるトイレやベンチの設置、多言語対応の案内板や説明板の設置や、多言語対応のガイドマップの作成など受入環境の整備に取り組む。

④ 地域住民の理解・認識を深め、地域への愛着や誇りの醸成。

日本遺産に関する市民講座やシンポジウム等の開催により、日本遺産に対する地域住民の理解や認識を深め、地域への愛着や誇りの醸成に取り組む。

⑤ 日本遺産の魅力を伝える人材の育成。

旅行者に日本遺産の魅力を効果的に伝えるため、ボランティアガイドや観光や歴史をテーマに活動する団体等と連携して、日本遺産を紹介できるガイド（有料）の養成に取り組む。

⑥ 日本遺産の情報発信・普及啓発に必要な未指定文化財の資料収集

文化財や文化に関する資料の収集を行い、新たな価値や魅力を創造し、地域経済の活性化を図る。

## (3) 自立的・継続的な取組

自治体や観光関連団体、酒造組合等で運営する「琉球文化推進協議会（仮称）」を設立し、民間観光事業者や地域の民間事業者、文化研究団体、酒造メーカー等の事業参画を図る。協議会の運営に当たっては、協議会会員の負担金をはじめ、旅行者へのニーズ調査に基づく旅行商品や体験ツアー、関連商品の開発販売、WEBサイトのバナー広告費などにより自主財源の確保に努めるほか、各種取り組みによる住民の地域への誇りの醸成や、身近にある文化財への理解を深めることで、住民一丸となって日本遺産を活用した地域の活性化を図り、自立的・継続的な運営体制を構築する。

(4) 実施体制

・協議会の名称  
「琉球文化推進協議会」（仮称）

・構成団体（予定）

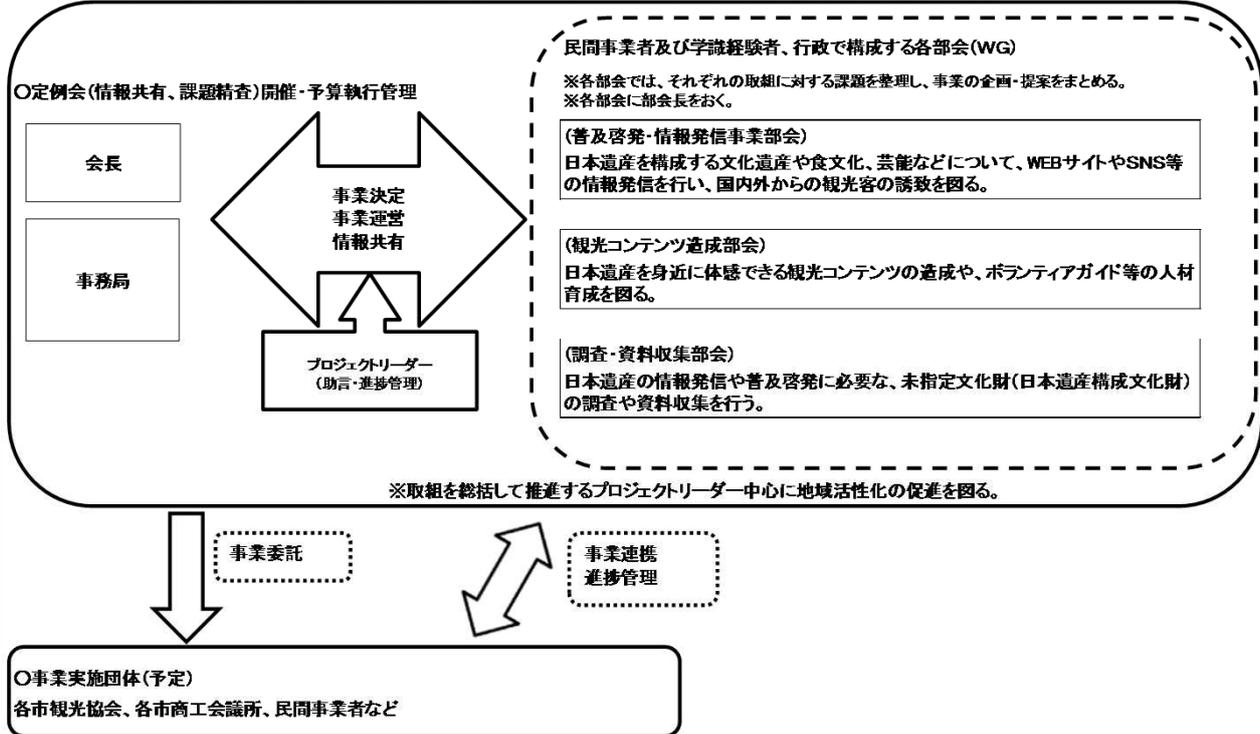
沖縄県（文化観光スポーツ部文化振興課、商工労働部ものづくり振興課、教育庁文化財課）、那覇市（市民文化部文化財課、文化振興課、経済観光部観光課、商工農水課）、浦添市（教育委員会文化財課、文化スポーツ振興課、市民部観光振興課）、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、（一財）沖縄美ら島財団、沖縄県酒造組合

・協議会の運営方法

協議会を円滑に運営するため、取組を統括するプロジェクトリーダーを置く。また情報発信や観光コンテンツ造成等を行う部会（普及啓発・情報発信部会、観光コンテンツ造成部会、調査・資料収集部会）を設置し、各部会に部会長を置く。プロジェクトリーダーと部会長は、定期的に会合の場を設け、情報共有するとともに、連携して事業に取り組むこととする。また部会には学識経験者や民間事業者等を加え、助言や提言をいただき事業の企画・提案をまとめる。

琉球文化推進協議会(仮称) 取組体制

【構成団体(予定)】沖縄県、那覇市、浦添市、(一財)沖縄観光コンベンションビューロー、(一財)沖縄美ら島財団、沖縄県酒造組合



(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

定量的評価：別紙①のとおり

期待される効果： 琉球料理や泡盛、芸能、首里城などは既に沖縄の観光資源として認知されているが、日本遺産の取り組みを通じて、その背景にある琉球王国時代の歴史・文化を絡めたストーリーで伝えていくことで、観光客に対してより深く魅力や価値を伝えることができる。また、地域の文化財を掘り起こすことで新たな観光資源として活用することも期待できる。さらに、県民がその価値を再認識し愛着や誇りが醸成されることにより、地域の文化財の保存・普及・継承の機運の高まりも期待できる。

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

別紙②のとおり

|      |         |          |         |          |         |          |
|------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|
| 事業費： | 平成31年度： | 38,391千円 | 平成32年度： | 17,531千円 | 平成33年度： | 10,411千円 |
|------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|

(7) その他事業

別紙③のとおり

## (5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

|         |  |
|---------|--|
| 設定目標Ⅰ：  | 日本遺産を活用した集客・活性化  |
| 計画評価指標： | 観光客入込み数  |
| 具体的な指標： | 構成市町村における観光客入り込み数  |
| 関連事業：   | (6)②、③、④、⑤、⑩、⑪、⑫<br>(7)  |
| 目標値：    | 平成 28 年度 8,167,742 人 ⇒ 平成 36 年度 11,282,000 人   |
| 設定根拠：   | 沖縄県と構成市町村の計画から目標値を算出し、平成36年度には約38%増を設定。  |
| 設定目標Ⅱ：  | 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化   |
| 計画評価指標： | 地域の文化に誇りを感じる住民の割合  |
| 具体的な指標： | 県が実施する県民意識調査における「県民が文化芸術にふれる機会が増加していること」の項目についての県民満足度                                    |
| 関連事業：   | (6)⑦、⑧<br>(7)①、③、⑦、⑧   |
| 目標値：    | 平成 27 年度 33.8 % ⇒ 平成 36 年度 45.0 %  |
| 設定根拠：   | 直近の調査が平成27年度の調査のため、目標値には9年で10%以上の増加を見込んで設定。  |
| 設定目標Ⅲ：  | 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立  |
| 計画評価指標： | 日本遺産関連で開発された商品・サービス数   |
| 具体的な指標： | 日本遺産関連で開発された観光商品、観光ルートの数   |
| 関連事業：   | (6)①、⑥、⑨<br>(7)②、④、⑤、⑥   |
| 目標値：    | 平成 31 年度 0 件 ⇒ 平成 36 年度 10 件   |
| 設定根拠：   | (6)①、⑨で新規に実施するため基準年は0件。補助事業では初年度にニーズ調査を行い、2年目以降に旅行商品の開発を予定している。平成32年度から毎年2件の商品開発を目標値に設定。 |
| 設定目標Ⅳ：  | その他  |
| 計画評価指標： | その他  |
| 具体的な指標： |  |
| 関連事業：   |  |
| 目標値：    | 平成 年度 ⇒ 平成 年度  |
| 設定根拠：   |  |

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

## (6) 日本遺産魅力発信推進事業

|   |   |                 |                     |
|---|---|-----------------|---------------------|
| 事業①： ニーズ調査の実施                           |   |                 |                     |
| 事業区分：                                   | 調査研究  | 事業期間：           | 平成 31 年度 ～ 平成 31 年度 |
| 事業費：                                    | 平成31年度： 5,500千円   | 平成32年度： 0千円     | 平成33年度： 0千円         |
| 事業概要：                                   | 国内・国外旅行者に対する調査を行い、誘客するターゲットの選定や興味・嗜好を分析する。  |                 |                     |
| 具体的な指標：                                 | 国内外からの旅行者の興味・嗜好を分析したグッズやパッケージツアーの開発数  |                 |                     |
| 目標値：                                    | 平成 31 年度 0 件 ⇒ 平成 36 年度 10 件  |                 |                     |
| 事業②： 日本遺産紹介WEBサイトの作成                    |   |                 |                     |
| 事業区分：                                   | 情報発信  | 事業期間：           | 平成 31 年度 ～ 平成 31 年度 |
| 事業費：                                    | 平成31年度： 7,200千円   | 平成32年度： 0千円     | 平成33年度： 0千円         |
| 事業概要：                                   | 琉球料理や泡盛、芸能、琉球王国時代の文化財等の魅力や価値を国内外に分かりやすく発信するため、多言語（英語、中国語繁体字・簡体字、韓国語、スペイン語）対応のWEBサイトを制作する。   |                 |                     |
| 具体的な指標：                                 | 日本遺産ホームページ閲覧回数（アクセス数）   |                 |                     |
| 目標値：                                    | 平成 31 年度 0 回 ⇒ 平成 36 年度 72,000 回  |                 |                     |
| 事業③： 映像コンテンツの制作                         |   |                 |                     |
| 事業区分：                                   | 情報発信  | 事業期間：           | 平成 31 年度 ～ 平成 32 年度 |
| 事業費：                                    | 平成31年度： 1,000千円   | 平成32年度： 1,000千円 | 平成33年度： 0千円         |
| 事業概要：                                   | 琉球料理や泡盛、芸能、琉球王国時代の文化財等の魅力や価値を発信するため、プロモーション動画等を制作し国内外に発信する。   |                 |                     |
| 具体的な指標：                                 | 日本遺産PR動画再生回数  |                 |                     |
| 目標値：                                    | 平成 31 年度 0 回 ⇒ 平成 36 年度 15,000 回  |                 |                     |
| 事業④： 広報コンテンツの制作（多言語対応パンフレット、ポスター、のぼり旗等） |   |                 |                     |
| 事業区分：                                   | 情報発信  | 事業期間：           | 平成 31 年度 ～ 平成 32 年度 |
| 事業費：                                    | 平成31年度： 2,520千円   | 平成32年度： 2,120千円 | 平成33年度： 0千円         |
| 事業概要：                                   | 日本遺産認定の周知のためのポスターを作成し、空港やモノレール駅、観光協会等で掲出を行う。また、日本遺産の魅力・見どころなどを掲載した多言語対応のパンフレットを作成し、国内・国外旅行社等へ配布するほか、観光客の往来の多い場所で配布するほか、作成したパンフレットはWEBサイトにも掲載する。さらにのぼり旗や卓上旗を設置することで日本遺産の周知を行う。 |                 |                     |
| 具体的な指標：                                 | 日本遺産を訪れた旅行者の割合  |                 |                     |
| 目標値：                                    | 平成 31 年度 0 % ⇒ 平成 36 年度 35 %  |                 |                     |
| 事業⑤： 受入環境の整備                            |   |                 |                     |
| 事業区分：                                   | 公開活用のための整備  | 事業期間：           | 平成 31 年度 ～ 平成 32 年度 |
| 事業費：                                    | 平成31年度： 10,000千円  | 平成32年度： 4,000千円 | 平成33年度： 0千円         |
| 事業概要：                                   | 旅行者に安心して快適な旅を楽しんでもらうため、構成文化財におけるトイレやベンチの設置、多言語対応の案内板や説明板の設置、多言語対応音声ガイドシステムを構築する。  |                 |                     |
| 具体的な指標：                                 | 沖縄県を訪れた外国人観光客の満足度   |                 |                     |
| 目標値：                                    | 平成 29 年度 95.1 % ⇒ 平成 36 年度 95.8 %   |                 |                     |

|                            |   |                 |                     |
|----------------------------|---|-----------------|---------------------|
| 事業⑥：日本遺産ガイドの養成講座の実施        |   |                 |                     |
| 事業区分：                      | 人材育成  | 事業期間：           | 平成 31 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業費：                       | 平成31年度： 1,700千円   | 平成32年度： 1,700千円 | 平成33年度： 1,700千円     |
| 事業概要：                      | 平成31年度に多言語対応の日本遺産ガイドマニュアルを作成し、日本遺産に特化したガイド養成講座を実施する。                          |                 |                     |
| 具体的な指標：                    | 受講者が行ったガイドの活動数  |                 |                     |
| 目標値：                       | 平成 31 年度  | 0 件             | ⇒ 平成 36 年度 200 件    |
| 事業⑦：シンポジウムの開催              |   |                 |                     |
| 事業区分：                      | 普及啓発  | 事業期間：           | 平成 31 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業費：                       | 平成31年度： 2,011千円   | 平成32年度： 2,011千円 | 平成33年度： 2,011千円     |
| 事業概要：                      | 日本遺産の普及・啓発を図るため、沖縄の伝統的な食文化や芸能に関する有識者、関係団体、地域資源の活用による観光客誘客の専門家等によるシンポジウムを開催する。 |                 |                     |
| 具体的な指標：                    | 構成文化施設における認知度アンケート調査による日本遺産の認知度   |                 |                     |
| 目標値：                       | 平成 31 年度  | 0 %             | ⇒ 平成 36 年度 100 %    |
| 事業⑧：市民向け出前講座の実施            |   |                 |                     |
| 事業区分：                      | 普及啓発  | 事業期間：           | 平成 32 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業費：                       | 平成31年度： 0千円   | 平成32年度： 2,000千円 | 平成33年度： 2,000千円     |
| 事業概要：                      | 市民や小中学生を対象にを作成し、日本遺産の講座を地域のガイドや有識者を講師として開催する。                                 |                 |                     |
| 具体的な指標：                    | 出前授業開催回数  |                 |                     |
| 目標値：                       | 平成 31 年度  | 0 回             | ⇒ 平成 36 年度 5 回      |
| 事業⑨：旅行商品の造成に向けたモニターツアー等の実施 |   |                 |                     |
| 事業区分：                      | 普及啓発  | 事業期間：           | 平成 32 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業費：                       | 平成31年度： 0千円   | 平成32年度： 3,700千円 | 平成33年度： 3,700千円     |
| 事業概要：                      | ニーズ調査の結果を踏まえた旅行商品造成のため、国内旅行者及び訪日外国人旅行者に対してモニターツアーを実施する。                       |                 |                     |
| 具体的な指標：                    | 日本遺産に関連して開発する旅行商品数  |                 |                     |
| 目標値：                       | 平成 31 年度  | 0 件             | ⇒ 平成 36 年度 10 件     |
| 事業⑩：未指定文化財に関する資料収集         |   |                 |                     |
| 事業区分：                      | 調査研究  | 事業期間：           | 平成 31 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業費：                       | 平成31年度： 1,000千円   | 平成32年度： 1,000千円 | 平成33年度： 1,000千円     |
| 事業概要：                      | 日本遺産ストーリーに関わる未指定文化財等の調査研究   |                 |                     |
| 具体的な指標：                    | 日本遺産ストーリーに関わる未指定文化財等の調査   |                 |                     |
| 目標値：                       | 平成 31 年度  | 0 件             | ⇒ 平成 36 年度 5 件      |

|                                |   |             |                     |
|--------------------------------|---|-------------|---------------------|
| 事業⑪： 沖縄都市モノレール（ゆいレール）を活用した広報事業 |   |             |                     |
| 事業区分：                          | 情報発信  | 事業期間：       | 平成 31 年度 ～ 平成 31 年度 |
| 事業費：                           | 平成31年度： 4,300千円   | 平成32年度： 0千円 | 平成33年度： 0千円         |
| 事業概要：                          | 平成31年度から、今の首里駅から浦添市の浦添グスク近くまで延伸されるタイミングに合わせて、沖縄都市モノレールのラッピング車両を運行させることで、日本遺産認定についての周知を図るとともに、モノレールを活用した構成文化施設巡りを促進する。 |             |                     |
| 具体的な指標：                        | 日本遺産を訪れた旅行者の割合  |             |                     |
| 目標値：                           | 平成 31 年度 0 % ⇒ 平成 36 年度 35 %  |             |                     |
| 事業⑫： 那覇空港内広報事業                 |   |             |                     |
| 事業区分：                          | 情報発信  | 事業期間：       | 平成 31 年度 ～ 平成 31 年度 |
| 事業費：                           | 平成31年度： 3,160千円   | 平成32年度： 0千円 | 平成33年度： 0千円         |
| 事業概要：                          | 那覇空港内のウェルカムホールやギャラリースペースを活用して、観光客や県民に対して広く日本遺産認定を周知する。  |             |                     |
| 具体的な指標：                        | 日本遺産を訪れた旅行者の割合  |             |                     |
| 目標値：                           | 平成 31 年度 0 % ⇒ 平成 36 年度 35 %  |             |                     |

## (7) その他事業

|       |  |       |                     |
|-------|--|-------|---------------------|
| 事業①:  | 沖縄食文化保存・普及・継承事業  |       |                     |
| 実施主体: | 沖縄県  | 事業期間: | 平成 29 年度 ~ 平成 33 年度 |
| 事業概要: | 担い手育成や情報発信により県民が食文化の価値を再認識し継承していく気運の醸成等に取り組む。  |       |                     |
| 事業②:  | 琉球泡盛再興プロジェクト支援事業   |       |                     |
| 実施主体: | 沖縄県  | 事業期間: | 平成 30 年度 ~ 平成 32 年度 |
| 事業概要: | 泡盛業界が、県内地域経済の振興を担うとともに、経営基盤の安定及び移出産業へと成長しているよう、戦略的な支援を実施する。                            |       |                     |
| 事業③:  | 村まわり組踊事業   |       |                     |
| 実施主体: | 浦添市  | 事業期間: | 平成 23 年度 ~ 平成 未定 年度 |
| 事業概要: | 沖縄が誇る組踊を身近で親しんでもらうことを目的に浦添市在住の実演家たちが市内自治会をまわり公民館等で組踊の上演を行う。                            |       |                     |
| 事業④:  | 那覇まちま〜い推進事業  |       |                     |
| 実施主体: | 那覇市  | 事業期間: | 平成 24 年度 ~ 平成 33 年度 |
| 事業概要: | 観光客の誘客を図るため、地元ガイドと那覇市内の観光地を巡る「那覇まちま〜い」の支援を行う。(沖縄振興特別推進市町村交付金を活用)                       |       |                     |
| 事業⑤:  | てだこの都市・浦添「あまくま歩っちゅん浪漫ウォーク」   |       |                     |
| 実施主体: | 浦添市  | 事業期間: | 平成 13 年度 ~ 平成 未定 年度 |
| 事業概要: | 観光誘客及び地域住民の健康意識の向上を図るため、「てだこウォーク」を開催する。  |       |                     |
| 事業⑥:  | 浦添版まちま〜い(仲間地区)   |       |                     |
| 実施主体: | 浦添市観光協会  | 事業期間: | 平成 25 年度 ~ 平成 未定 年度 |
| 事業概要: | 琉球王国発祥の地とされる浦添の集落などを散策します。浦添と琉球王国にまつわる史実や伝説を楽しみながら、地域に残る数多くの史跡や拝所を巡る、歴史ロマンに満ちた散策を体験する。 |       |                     |
| 事業⑦:  | 浦添グスク・ようどれ探検   |       |                     |
| 実施主体: | NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会   | 事業期間: | 平成 22 年度 ~ 平成 未定 年度 |
| 事業概要: | 毎年夏休みに児童、保護者を対象に浦添グスクとようどれ及び周辺地域において文化財クイズラリーで巡る。地域の文化財に親しみ文化財保護意識の醸成を図る。市共催。          |       |                     |
| 事業⑧:  | 歴史ロマン街道 尚寧の道をたどる   |       |                     |
| 実施主体: | NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会   | 事業期間: | 平成 20 年度 ~ 平成 未定 年度 |
| 事業概要: | 毎年文化の日に市民が参加し、琉球王国時代の国道「中頭方西海道」の浦添グスク〜首里城区間をウォーキングする。道沿いの文化財に親しみ文化財保護意識の醸成を図る。市共催。     |       |                     |
| 事業⑨:  |  |       |                     |
| 実施主体: |  | 事業期間: | 平成 年度 ~ 平成 年度       |
| 事業概要: |  |       |                     |
| 事業⑩:  |  |       |                     |
| 実施主体: |  | 事業期間: | 平成 年度 ~ 平成 年度       |
| 事業概要: |  |       |                     |